

伊勢志摩サミットの“成功”に向けて

三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局
局長 西城 昭二

伊勢志摩サミット開催まで

あと **100**日

ジュニアサミット開催まで

あと **66**日



伊勢志摩サミット・ロゴマーク

平成28年2月16日
平成27年度「県と市町の地域づくり
連携・協働協議会」総会



伊勢志摩サミット
三重県民会議

目次

伊勢志摩サミットの“成功”に向けて

はじめに 伊勢志摩サミットに向けた取組の概要	3
(1) サミットを安全・安心に開催するための取組	15
(2) 県民参加の促進に向けた取組 ～サミットを全県的な取組にするために～	24
(3) 次世代にサミットの資産を残すための取組	35



伊勢志摩サミット
三重県民会議

伊勢志摩サミットに向けた取組の概要



伊勢志摩サミット
三重県民会議



取組の基本方針



伊勢志摩サミットの成功に向けて

3つの成功要因

- サミットを**安全・安心に開催**
- サミットに**全県的に取り組む**
- サミット開催を一過性のものとしてせず、**次世代にサミットの資産を残す**

伊勢志摩・三重県の知名度向上や国際観光地としてのレベルアップのみならず、**地域の総合力向上**につなげる



取組の基本方針（4本柱）

開催支援

～万全の態勢で主要国首脳会議を成功させる～

おもてなし

～歴史に育まれたあたたかい心で、世界からのお客様の記憶に残る「おもてなし」を行う～

明日へつなぐ

～子どもたちをはじめ県民が主役となって世界との交流を進め、三重の希望を明日へつなぐ～

三重の発信

～美しい自然、豊かな文化・伝統など、わたしたちが誇りに思う三重を発信する～

伊勢志摩サミットの全体像

主要国首脳会議のほか配偶者プログラムやジュニアサミットなど国が行う公式プログラムのみでなく、伊勢志摩サミット三重県民会議が行う事業や、県、市町が独自に実施する関連事業も含めたものを、伊勢志摩サミットの全体像と捉え、サミット成功に向けて取り組む



推進体制



伊勢志摩サミット三重県民会議



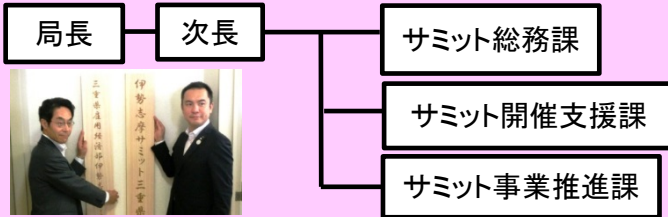
現在、事務局は68名体制。

- ・県職員35名
- ・県警察職員2名
- ・国職員4名(環境省1名、経済産業省1名、外務省1名、財務省東海財務局1名)
- ・市町職員7名(伊勢市1名、鳥羽市1名、志摩市2名、南伊勢町1名、桑名市2名)
- ・企業20名(イオンリテール株式会社1名、株式会社NTTドコモ1名、近鉄グループホールディングス3名、JAグループ三重2名、損害保険ジャパン日本興亜株式会社1名、株式会社第三銀行1名、中部電力株式会社1名、株式会社電通1名、西日本電信電話株式会社1名、日本通運株式会社1名、株式会社博報堂1名、株式会社百五銀行2名、マックスバリュ中部株式会社1名、株式会社三重銀行1名、三重交通グループホールディングス株式会社2名)

○官民一体となった三重県全体の受け入れ体制。(産業・経済、観光、教育、文化、国際交流等、現在会員140団体)

○事務局:伊勢志摩サミット推進局内に置く。

伊勢志摩サミット推進局



○6月8日(月)、雇用経済部に
「みえ伊勢志摩サミット推進局」を設置
 (7月15日(水)、「伊勢志摩サミット推進局」に名称変更)

三重県伊勢志摩サミット推進本部



- 構成員
- ・本部長:知事
 - ・副本部長:副知事
 - ・本部員:部局長等

・庁内横断組織(※推進本部、幹事会を開催)

○6月26日、庁内横断組織として

「三重県伊勢志摩サミット推進本部」を設置

○7月14日、推進本部のもと

防災・危機対策委員会及び保健・医療対策委員会を設置



伊勢志摩サミット関連予算の概要



～平成28年度当初予算【平成27年度2月補正予算含む】～

伊勢志摩サミットの成功に向けて、市町、企業、関係団体等と連携し「開催支援」に取り組むとともに、サミットを一過性に終わらせることなく、開催後の地域活性化につなげるため、「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」を柱に、全県的な取組を推進します。

総計2,629,026千円
(9,330,941千円)

※()書きの予算額は、
27・28年度2か年分計

1. サミット関連予算《伊勢志摩サミット推進局分》 計 472,687千円 (805,653千円) *

開催支援

計 88,472千円 (125,504千円)

各国首脳等の歓迎・交流	27,457千円
インフォメーション機能の整備	12,018千円
報道関係者等の歓迎・支援	47,665千円 等

おもてなし

* 県民会議における市町負担金分を含む

計 58,579千円 (110,466千円)

クリーンアップ活動、花いっぱいおもてなし運動	48,078千円
サミットフォーラムの開催	4,501千円 等

明日へつなぐ

計 144,204千円 (160,144千円) (※)は、サミット終了後の事業

ジュニア・サミット参加者との交流等	25,110千円
国際理解・国際交流プログラム等	2,282千円
大学生・留学生との交流事業(※)	10,239千円
サミット記念館の設置(※)	21,056千円
記録誌作成(※)	10,436千円 等

◎今後新たにポストサミット事業に取り組むための費用として66,000千円を確保

三重の発信

計 122,451千円 (280,992千円)

三重県情報館(仮称)の設営・運営	36,200千円
海外プレスツアー、プロモーション	55,044千円
県内・県外イベントでのPR、ポスター等によるPR	15,746千円
動画CMの放映	5,778千円 等

その他事務所設置費・運営費等 58,981千円(128,547千円)

(県民会議事務局運営費・会議費 20,043千円、現地事務所設置経費 13,943千円 等)

2. サミット関連予算《安全・安心な開催に向けた対策》 計 2,156,339千円 (8,525,288千円)

・テロ等対策【警察本部】	1,080,970千円
・道路除草等の周辺環境整備事業【県土整備部】	721,000千円
・消防防災関係サミット対策事業【防災対策部】	353,984千円
・食の安全食品検査事業【健康福祉部】	7,086千円
・災害医療体制強化推進事業【健康福祉部医療対策局】	5,848千円 等

【参考】

ポストサミット事業予算総額 284,611千円 (2月補正を含む。うち14,777千円は、上記の県民会議事業内で計上。)



<参考>伊勢志摩サミット関連予算の状況



総計 9,330,941千円 【伊勢志摩サミット推進局分 805,653千円、安全・安心対策分 8,525,288千円】 (単位:千円)

予算区分	予算額	財源内訳					
		県費	国庫支出金	寄附金	県債	基金繰入金	その他
27年度 12月補正 まで	6,688,915 【6,701,915】	285,114	419,159	150,000	5,489,000	342,589	3,053 【16,053】
27年度 2月補正	1,077,153	▲328	1,986,550	280,000	▲1,395,000	205,931	0
28年度 当初	1,538,873 【1,551,873】	843,595	665,257	20,000	0	0	10,021 【23,021】
計①	9,304,941 【9,330,941】	1,128,381	3,070,966	450,000	4,094,000	548,520	13,074 【39,074】
27年度 最終見込②	0	0	824,682	0	▲803,000	▲18,682	▲3,000
総計 (最終見込 含①+②)	9,304,941 【9,330,941】	1,128,381	3,895,648	450,000	3,291,000	529,838	10,074 【36,074】

国からの財政支援

公共事業関係 27.1億円(主要国首脳会議開催準備環境整備費補助金6億円、
防災・安全交付金 21.1億円)、警察費補助金 4.7億円、
地方創生関係 3.6億円、消防防災救急関係交付金 3.5億円

【参考】国庫補助対象となった道路等整備事業(平成27年度予算)の推移

	9月補正	2月補正	最終補正 (見込み)	計(見込み)	
県単事業	5,446,900	▲2,975,643	▲1,584,655	886,602	
国補事業	-	3,696,643	1,584,655	5,281,298	補助金額
うち外務省	-	1,222,093	10,260	1,232,353	600,287
うち国交省	-	2,474,550	1,574,395	4,048,945	2,110,945

※1 「平成27年度12月補正まで」欄は、平成26年度2月補正分から平成27年度12月補正分までの累計額

※2 【 】書きは、県民会議における市町負担金分(平成27,28年度とも、13,000千円)を含む額を表記

※3 (参考) 企業会計(水道事業会計)の平成28年度当初予算額(19,442千円)は外数



ポストサミット関連予算の概要

サミットの開催は三重にとって千載一遇のチャンスであり、これを一過性にせず、サミットの資産を次世代に継承していかなければなりません。
⇒三重県における「ポストサミット」を、《サミットの「レガシー」を三重の未来に生かすこと》と定義し、そのために具体的な取組を展開していきます。

サミット開催に向けた「オール三重」による取組は、県民の皆さんがサミットの成果を地域の発展のために生かそうとする行動や、地域をより良くしようとする行動へとつながります。そのことにより、**地域の活力・魅力が高まって、観光やビジネスなどのさまざまな分野で三重が世界から選ばれる**ようになり、それが**次代を担う若者や子どもたちの希望につながっていく**という「正のスパイラル」が生まれ、地域の自立かつ持続的な活性化が図られます。そのように、**サミットのレガシーを最大限に生かし、三重の未来を持続的に発展させていく**ことが、「ポストサミット」の基本的な考え方です。

サミットの「レガシー」

サミットの開催により
地域にもたらされる
有形無形の好影響

①知名度等の向上

- ・「日本人の心のふるさと」三重・伊勢志摩の知名度の向上や評価・関心の高まり
- ・県民と海外・世界との距離が縮まること 等

②会議自体の成果

- ・宣言、方針、共同声明等や、それらに基づく計画、取組 等

③地域の総合力の向上

- ・県民や地域の一体感の醸成
- ・郷土に対する愛着や誇りの高まり
- ・地域に対する理解の深化、地域のネットワークの強化
- ・地域で自らイノベーションを起こそうとする県民の行動の活発化(アクティブ・シチズンの増加)
- ・おもてなしの力の向上
- ・「ダイバーシティ※」の視点による地域の深化
- ・県民力で「安全・安心」に取り組んだ経験 等

※ダイバーシティ:国籍や人種、信仰、性別・ジェンダーの違いや年齢差、障がいの有無などの「違い」を積極的に受け入れ活用する視点から、組織や社会として人材等の多様性を生かすこと

具体的な取組

〈平成28年度当初 計69,402千円〉
〈平成27年度補正 計215,209千円〉
※県民会議の取組を含む。

- ・サミットが開催されるからこそ生まれる(発展する)取組
- ・アクティブ・シチズンとしての県民の行動を促す取組
- ・サミット開催後、一定期間にわたって効果が持続する取組

①人と事業を呼びこむ

〈平成28年度当初 計53,164千円〉
〈平成27年度補正 計143,632千円〉

- (知名度等の向上を最大限に生かし、国内外の人びとと事業を呼びこむ取組)
- 【MICE誘致】○海外MICE誘致促進事業(27補)
○世界経済のリーダーを呼び込む国際会議開催事業(27補)
 - 【インバウンド】○海外誘客推進プロジェクト事業(27補)
○三重県版バリアフリー観光促進事業(27補)
○地域活性化(観光活性化)ファンド組成事業
 - 【食の産業振興】○みえの農林水産物の魅力総合発信事業(27補)
○「みえの食」グローバル市場獲得推進事業
 - 【国際戦略】○グローバル創業支援事業(27補)
○外資系企業ワンストップサービス推進事業(27補)

②成果を発展させる

〈平成28年度当初 計3,000千円〉
〈平成27年度補正 計14,690千円〉

- (サミットそのものの成果を引き継ぎ発展させる取組)
- 【安全・安心】○安全安心まちづくり事業(一部)
 - 【サミットの聖地】○みえの農林水産「八百万サミット」開催事業(27補)
◆世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業
 - 【環境】○みえの環境技術移転国際会議開催事業(27補)

③次世代に継承する

〈平成28年度当初 計13,238千円〉
〈平成27年度補正 計56,887千円〉

- (サミットを通じて高まった地域の総合力を、次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取組)
- 【次世代育成】◆三重県高校生サミット開催事業
◆大学生・留学生との交流事業
 - 【女性の活躍】○未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業(当初、27補)

注)事業名に◆印を付したものは、伊勢志摩サミット三重県民会議への寄附金を財源として実施する事業です。

☆サミットのテーマ決定、開催成果を受けて、ポストサミットの考え方をさらに進化させ、あわせて関連取組を検討します。

「伊勢志摩サミットの開催後、我が国での次のサミット開催地が決定するまで」を三重県の「ポストサミット期」と捉え、長く効果が持続すると期待される取組を展開していく。

伊勢志摩国立公園指定70周年(平成28)、全国菓子大博覧会・三重(平成29)、三重とこわか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会(平成33)などを経て、第63回神宮式年遷宮(平成37「山口祭」)・平成45「遷御の儀」)

持続的に発展する三重の未来へ

伊勢志摩サミットの開催

ポストサミット 個別事業概要



【MICE誘致】

①人と事業を呼びこむ

- 海外MICE誘致促進事業(27補) [16,708千円]
- 世界経済のリーダーを呼び込む国際会議開催事業(27補) [30,000千円]

<目的>
G7サミットという世界最高峰の国際会議の開催地としての知名度の飛躍的向上を生かし、国際会議をはじめとするMICE※の誘致に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・海外MICEをインバウンドの重要な分野とし、誘致に向けた取組を展開する。
- ・世界経済のリーダーが集う国際会議を誘致し、世界に「三重」を発信する。



※MICE:企業の会議、企業等が行う報奨・研修旅行、国際機関・団体・学会等が行う国際会議、展示会・見本市・イベント。

【国際戦略】

①人と事業を呼びこむ

- グローバル創業支援事業(27補) [6,863千円]
- 外資系企業ワンストップサービス推進事業(27補) [5,493千円]

<目的>
サミット開催を契機に、安全・安心等、ビジネス環境における三重の優位性の認知度を高め、世界に向けた起業や外資系企業誘致を推進し、産業の多様性のさらなる向上に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・グローバルな創業・第二創業の促進のため、海外支援機関等との連携等を支援する。
- ・「外資系企業ワンストップサービス窓口」を設けてニーズへの迅速な対応を図るとともに、各国大使館を通じたPR活動等に取り組む。



【環境】

②成果を発展させる

- みえの環境技術移転国際会議開催事業(27補) [10,000千円]

<目的>
ジュニア・サミットが「環境」をテーマに開催される予定であることから、四日市公害等で培われた環境技術等、環境先進地域・三重の世界への発信と、地球環境の保全と経済成長の両立への貢献に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・新興国等を対象に、(公財)国際環境技術移転センター(ICETT)の研修生OB(政府幹部)等を招いた国際会議を開催する。



【インバウンド】

①人と事業を呼びこむ

- 海外誘客推進プロジェクト事業(27補) [63,029千円]
- 三重県版バリアフリー観光促進事業(27補) [3,118千円]
- 地域活性化(観光活性化)ファンド組成事業 [20,000千円]

<目的>

サミット開催により三重県の知名度が高まる好機を捉え、インバウンド需要のさらなる拡大に向けた環境整備や誘客促進に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・欧米市場や富裕層、ゴルフツーリズム等の新たな誘客を促進する。
- ・案内表示の非言語(ピクトグラム)化など、インバウンド対応のための環境整備を進める。



【安全・安心】

②成果を発展させる

- 犯罪から県民を守るアクションプログラム(仮称)の策定(「安全安心まちづくり事業」の一部) [1,000千円]

<目的>

「伊勢志摩サミット」の開催による県民の皆さんの安全意識の高まりを引き継ぐとともに、「協創」による安全で安心なまちづくりを着実に進めていくため、「犯罪から県民を守るアクションプログラム(仮称)」の策定を進める。

<具体的な事業内容>

- ・安全・安心な社会にとっての新たな脅威となりつつある諸問題に総合的・横断的に対応するため、「犯罪から県民を守るアクションプログラム(仮称)」の策定を進める。



【食の産業振興】

①人と事業を呼びこむ

- みえの農林水産物の魅力総合発信事業(27補) [18,421千円]
- 「みえの食」グローバル市場獲得推進事業 [33,164千円]

<目的>

サミット開催を通じて三重県の食材や食文化に国内外から注目が集まる機会を生かし、三重の「食」の魅力発信や、国内外への販路拡大に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・首都圏等において県産農林水産物の魅力を伝えるとともに、ブランド力の一層の向上を促進する。
- ・食に関する多様な連携を推進し、洗練された商品やサービスを創り出しつつ魅力的な情報発信を行うことで、みえの食のブランドイメージを向上し、グローバル市場を獲得していく。



【サミットの聖地】

②成果を発展させる

- みえの農林水産「八百万サミット」開催事業(27補) [4,690千円]
- ◆世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業 [2,000千円]

<目的>

G7サミットの開催地として、「『サミット』といえば三重県」というイメージが確立されることを生かし、「サミット」の名のつくイベントの県内開催や、サミットを記念した国際交流等に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・農林水産物の生産・加工・販売の主体を集めて行う各種「サミット」を県内で開催する。
- ・「伊勢志摩サミットメモリアルデー」を創設し、国際交流の支援等につなげる。



【次世代育成】

③次世代に継承する

- ◆三重県高校生サミット開催事業 [2,538千円]
- ◆大学生・留学生との交流事業 [10,239千円]

<目的>

世界と三重の距離が大きく縮まるなど、サミット開催による地域の総合力の向上を次代を担う若者の育成につなげるため、同世代の国際交流促進等に取り組む。

<具体的な事業内容>

- ・県内高校生がジュニア・サミットのテーマ等に関する意見交換等を行う。
- ・県内外の大学生や留学生が三重に集い、交流する。



【女性の活躍】

③次世代に継承する

- 未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業 [28当初:461千円, 27補:56,887千円, 計57,348千円]

<目的>

サミット開催により、性別などの「違い」に関わらず活躍する人の姿にあらためて注目が集まり、「多様性」の重要さが再認識される機会をとりえ、三重における女性活躍の機運の一層の醸成に取り組む。

<具体的な事業内容>

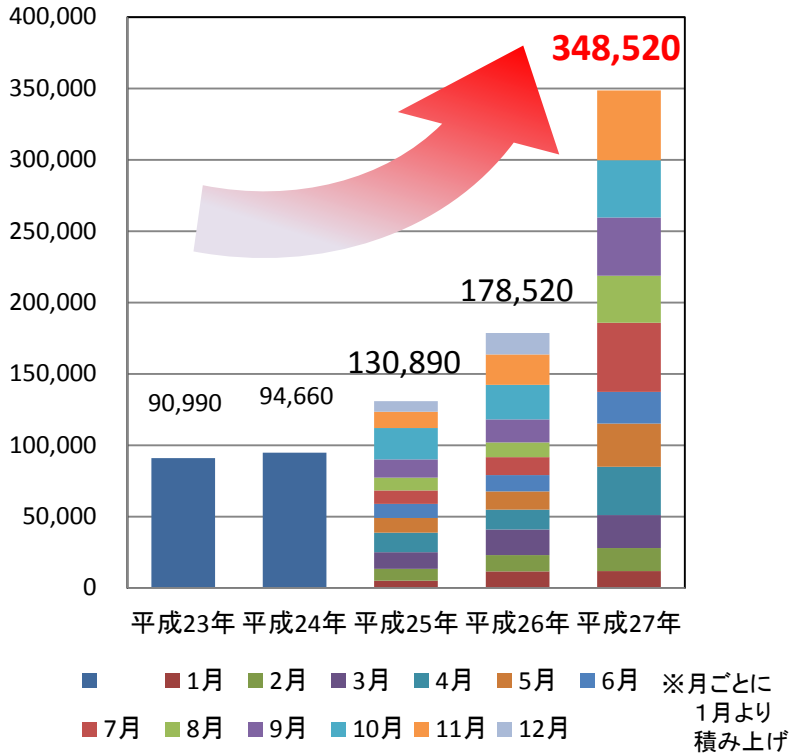
- ・国際的に知名度のあるスピーカー等を招聘し、「女性活躍」をテーマにした公開フォーラムを開催するとともに、参加者による共同宣言を実施する。



サミット開催決定による効果①



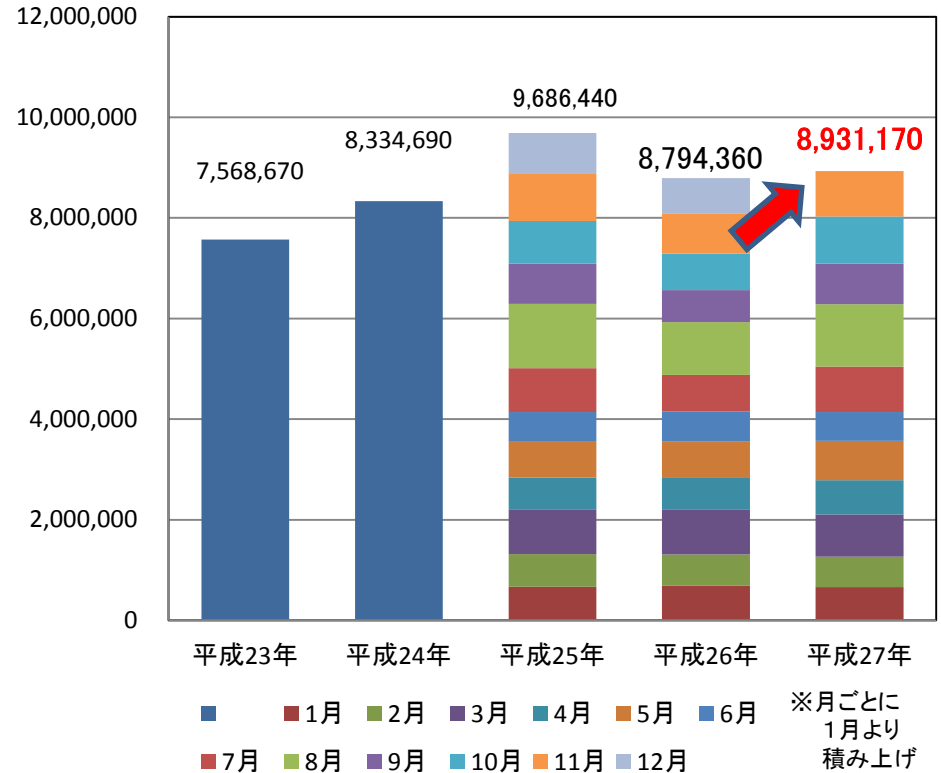
外国人延べ宿泊者数



- ◆平成25年 130,890人泊
- ◆平成26年 178,520人泊
対前年比36.4%増
- ◆平成27年11月末 **348,520人泊**
対前年同期比 **112.9%増**
伸び率

7、8、11月 **全国第1位**

延べ宿泊者数（国内外全体）



- ◆平成25年 9,686,440人泊
- ◆平成26年 8,794,360人泊
- ◆平成27年11月末 **8,931,170人泊**
対前年同期比 **10.4%増**



サミット開催決定による効果②



三重県への注目度が急上昇！

「2016年に注目されそうな都道府県」 **第2位**

順位	都道府県
1	東京
2	三重
3	北海道
4	大阪
5	沖縄

出典:アットホーム(株)

三重県を選んだ回答者のうち、約9割の方が「伊勢志摩サミットが開催されるから」と回答

国内外のメディアからの取材も増加

海外メディアの取材
ロイター
ニュースウィーク 他

国内外メディアの知事へのインタビュー等の件数
平成26年度 17件
平成27年度 **74件**
☆サミット開催決定から7ヶ月余りで
67件

「2016年に訪れるべき場所」
に**日本で唯一**選ばれる！

おすすめは、
伊勢志摩国立公園と
海岸線、
真珠養殖、
美味なる松阪牛、
神聖なる熊野古道…



アメリカの大手
旅行雑誌
トラベル&レジャー
が発表



サミット開催決定による効果③



◆九州・沖縄、北海道洞爺湖の各サミット

平成27年6月9日朝日新聞朝刊

九州・沖縄
サミット

- ・名護市の2014年度の宿泊者数124万人(00年から倍増)
- ・「かりゆし」の製造枚数 00年:11万枚→13年:43万枚(4倍増)
- ・市商工観光課「サミットで観光地としての知名度が上がった」

経済効果
約440億円
(開催前の試算)

北海道・洞爺湖
サミット

- ・洞爺湖町の2014年度の宿泊者数 08年度より9%少ない62万人
- ・サミット会場になったホテルは昨年、売却された
- ・地元観光協会「サミットがなければもっと減っていたかも」

経済効果
約350億円(試算)

◆伊勢志摩サミット(参考) ※県としての試算は、年度内に公表予定

百五経済
研究所

- ・直接効果:全国では**510億円(うち三重県内は130億円)**
(直接効果。国・県の直接関係予算を270億円と想定)
- ・ポストサミット効果:5年間で**1,110億円**
外国人観光客数の増加による効果 185億円(年間)
国際会議の開催件数の増加による効果 37億円(年間)
(参考)国内観光客数の増加による効果 495億円(年間)

中部圏社会
経済研究所

- ・直接効果
- ①経済効果(生産波及効果):**三重県で328.6億円(日本全体で1,078.6億円)**
- ②粗付加価値誘発効果:三重県で173.4億円(日本全体で528.9億円)
- ③雇用誘発効果:三重県で2,660人(日本全体で7,365人)
- ・ポストサミット効果:観光消費額が5年間の累計で**1,194.2億円増**

大和証券

- ・観光消費額が5年間で累積**1,750億円増**
(ポストサミット効果。洞爺湖サミットは122億円。
奈良県と同程度の訪日外国人/日本人比率を想定。県の訪日外国人観光消費額が平成25年の22億円の17倍の369億円程度、2020年には倍の700億円程度と期待)

伊勢志摩サミット東海三県一市 担当課長会議

【構成機関】

三重県、愛知県、名古屋市、岐阜県
【オブザーバー】
外務省等国関係機関

目的

実務者レベルで、情報共有を図り、サミット成功に向けた協議・調整を実施するため。

○27年9月9日に開催された「東海三県一市知事市長会議」において、設置が決定。

○実務レベルの連絡会議として、27年10月8日に第1回会議、11月11日に第2回会議を開催。

○28年1月27日に、サミット会場近辺の志摩市で第3回会議を開催。

世耕内閣官房副長官への要望(11/4)

主な取組

国への提言

1. サミット開催にかかる財政支援
2. 日本の技術力を集積した展示館と東海ものづくり最新技術PR拠点の設置



伊勢志摩サミット東海会議

【会員(24機関・団体)】

三重県、愛知県、名古屋市、中部経済連合会等
【オブザーバー(9機関)】
岐阜県、国関係機関

目的

官民一体となり、サミット成功に向けた支援・協力を実施するとともに、東海地域の魅力を発信し、地域の活性化につなげていくため。

○東海地域の官民一体の組織として、27年11月5日に設立。

○27年12月28日、セントレアにカウントダウンボード設置。

主な取組

おもてなし事業 地域情報PR事業 PRツール作成事業

※セントレア、名古屋駅の装飾は東海会議が実施。





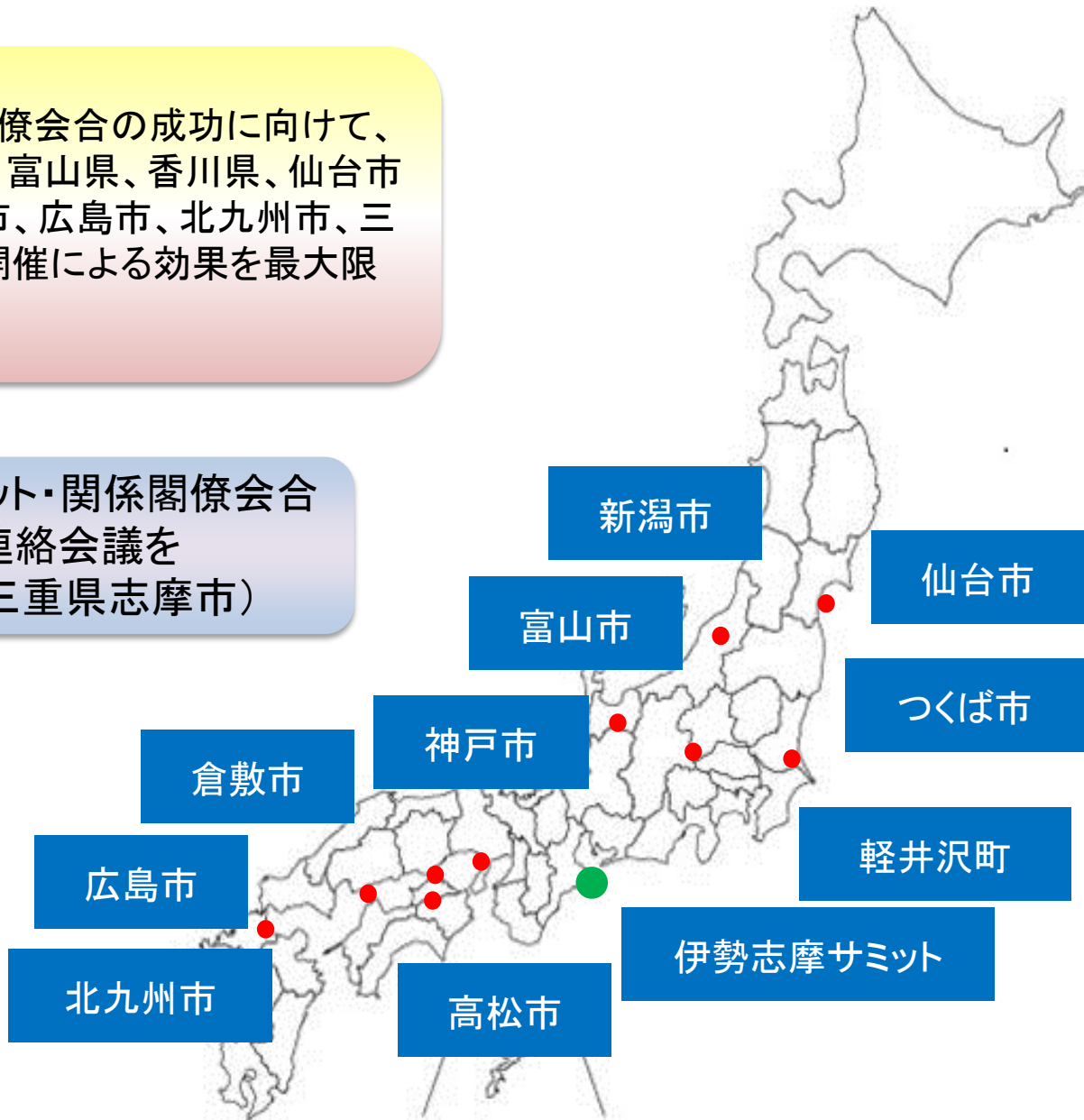
関係閣僚会議開催都市との連携



伊勢志摩サミット・関係閣僚会合の成功に向けて、各県市(茨城県、長野県、富山県、香川県、仙台市、新潟市、神戸市、倉敷市、広島市、北九州市、三重県)が連携し、サミット開催による効果を最大限に引き出すことを目指す

第1回伊勢志摩サミット・関係閣僚会合
開催自治体連絡会議を
1月28日に開催(三重県志摩市)

関係閣僚会議開催県
と連携し、東京都内
のアンテナショップで
スタンプラリーを
開催中!(1月12日~)



(1) サミットを安全・安心に開催する ための取組



伊勢志摩サミット
三重県民会議

●官民挙げてのテロ対策の実施へ

伊勢志摩サミットを狙ったテロを未然に防止する

テロ対策三重パートナーシップ推進会議の設立(10/28)

41機関が参加

県警察本部、消防、自衛隊
海上保安庁、官公庁(国・県・市町)
鉄道・バス事業者、電気・ガス事業者
通信事業者、地域団体 など

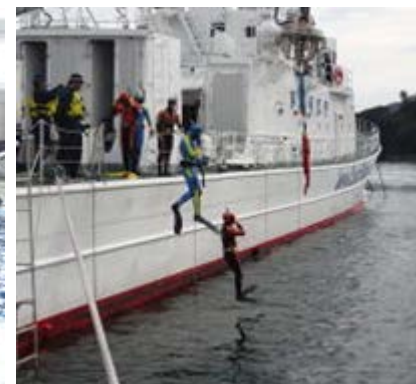
今後の活動

各種訓練の実施、研修・講習の開催
組織拡充・連携強化、情報共有 など

潜水訓練の実施(11/13)

[内閣官房]サミット準備会議

警備の基本方針を決定(9/15)



官民一体の日本型テロ対策の推進

●万全な警備体制の構築へ

消防・救急体制の強化

あらゆる不測の事態を想定し、
事前準備を徹底する

危険箇所の徹底調査

開会前には要所での検問を実施

パリでの同時多発テロを受け、
警察本部各部及び県下警察署に指示

情報収集の強化
警戒警備の強化を指示

—三重県警—



機動隊員の訓練の様子

全国初！

ドローン規制条例制定

・志摩市賢島内の円山公園内の四等三角点を中心として、
1,500mの半径を有する円内の地域を飛行禁止区域とする
・本年1月27日施行

【組織体制図】

三重県伊勢志摩サミット推進本部

【平成27年7月14日設置】

防災・危機対策委員会 (防災対策部)

委員長： 防災対策部長
 副委員長： 防災対策部副部長
 委員： 防災対策部次長、危機管理副統括監、コンビナート防災監、防災対策総務課長、消防・保安課長、防災企画・地域支援課長、災害対策課長、危機管理課長

保健・医療対策委員会 (健康福祉部)

委員長： 健康福祉部長
 副委員長： 医療対策局長、環境生活部長、企業庁長、病院事業庁長、健康福祉部副部長
 委員： 健康福祉部次長、医療対策局次長、環境生活部次長、企業庁次長、病院事業庁副庁長、健康福祉総務課長、食品安全課長、業務感染症対策課長、地域医療推進課長、大気・水環境課長、県立病院課長、水道事業課長

「保安」重点立入調査の実施

消防特別警戒
連絡協議会

防災・危機対策
関係機関連絡会議

県・市町
災害対策会議

総務班

食品衛生対策班

感染症・医薬品対策班

救急医療対策班

水道対策班

総務省消防庁
消防・救急対策委員会
(警防部会・予防部会)



防災・危機対策委員会の取組

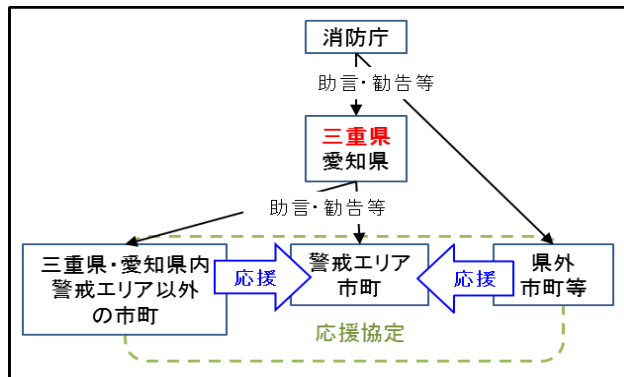


防災・危機対策委員会

伊勢志摩サミットの円滑な実施に向け、防災・危機対策を推進するため、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下に設置。進捗状況の共有や今後の対応方針について協議。

消防特別警戒連絡協議会

伊勢志摩サミットの消防特別警戒を円滑に推進するため、県内消防機関の連携を図る組織として設置。国が設置した伊勢志摩サミット消防・救急対策委員会と連携。



消防特別警戒とは

警戒対象施設(サミット会議場、関係者宿泊施設、メディアセンターなど)における火災等の未然防止と、予防警戒や災害発生時の消防・救急・救助活動に万全を期すための体制の構築や活動。

防災・危機対策関係機関連絡会議

伊勢志摩サミットの防災・危機対策を円滑に推進するため、県、自衛隊、警察本部、海上保安本部、消防本部等関係機関の連携を図る組織として設置。連絡調整及び情報共有を図っている。

県・市町災害対策会議

伊勢志摩サミット開催時における地震・津波を中心とした自然災害対策を推進するため、県及び関係市町の連携を図る組織として設置。連絡調整及び情報共有のほか必要な取組を実施。

- ①DONETを活用した南海トラフ地震対策
- ②観光関連事業者を対象とした研修
- ③宿泊施設のための地震・津波避難対策マニュアル及び津波避難マップ
- ④避難訓練の実施
- ⑤防災情報を活用した避難誘導體制の整備等



津波避難マップ(作成例)

「保安」重点立入検査の実施

伊勢志摩サミットに向けて、高圧ガスや火薬類等に関する保安確保のため、開催地域及びその周辺地域を対象として、重点立入調査を実施。



立入事業所数 143件
(本庁:47件、地域事務所:96件)

立入検査の状況

保健・医療対策委員会

伊勢志摩サミットの円滑な実施に向け、保健・医療対策を推進するため、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下に設置。進捗状況の共有や今後の対応方針について協議。

食品衛生対策

○食品関係施設、宿泊施設の監視指導等

- ・県内の食品関係施設、宿泊施設を対象に監視指導を実施。
- ・食品等の検査を実施。
- ・食品衛生講習会等を実施。



食品衛生セミナー
(10月28日実施)

○食品事業者を対象としたセミナーの開催

感染症・医薬品対策

○血液製剤・医薬品等の供給対策

- ・サミット開催期間中の血液製剤、医薬品等の供給体制の整備。
- ・解毒剤の備蓄状況調査を実施。

○毒物劇物対策

- ・毒物劇物取扱施設の監視指導を実施。
- ・毒物劇物の取扱いに関する講習会の開催。

○感染症対策

- ・感染症情報の収集体制の整備。
- ・患者発生時の搬送及び感染拡大防止対策の強化。
- ・感染症予防対策の実施。

救急医療対策

○緊急医療体制の整理・国との役割分担の検討

○緊急医療の基本的な情報共有及び県内外の医療機関等との調整

○訓練等の実施

- ・医療関係者、消防等を対象にしたNBC災害・テロ対策研修(厚生労働省主催、三重大学で開催)
- ・平成27年度三重県国民保護共同図上訓練に参加。



NBC災害・テロ対策研修(12月24～26日実施)

水道対策

○市町水道施設及び広域水道施設の点検等の実施

- ・関係市町が管理する水道施設の自主点検及び監視強化計画の作成を依頼。
- ・伊勢志摩サミット水道対策連携会議の開催。
- ・広域水道施設の点検を実施。

○サミット会場、宿泊施設等の点検等の実施

- ・会場や宿泊施設における衛生的環境の確保について点検・指導を実施。



住民懇話会



伊勢志摩サミット開催地周辺の伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町の住民の皆様を対象として、サミットに関する情報を伝える「住民懇話会」を開催します。

実施者

- ・三重県伊勢志摩サミット推進局
- ・三重県警察
- ・第四管区海上保安本部
- ・伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町

他、必要に応じて協力いただきます。
(第2回には県防災対策部も参加)

開催日程・対象・内容

	第1回	第2回	第3回
日程	11月20日から12月10日(4会場)	2月7日から2月28日(12会場)	平成28年4月下旬から5月上旬
対象	4市町の自治会(区)長	4市町の住民等	

内容

- ・各機関の伊勢志摩サミットに関する取組概要説明
- ・質疑応答





弁当供給体制



伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心な食事を大量に継続して供給するための体制を整備。

整備する2つの供給体制

- (1) 屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要(以下、大規模需要)への対応
- (2) 屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要(以下、小規模需要)への対応

(1) 大規模需要への対応について

平成28年3月から5月にかけて、伊勢志摩地域を中心に県内各地に配置される警備関係者等からの大規模な弁当需要に対応するため、企画提案コンペで、業務実施事業者を選定。

選定方針：万全の食品衛生管理体制の確保

県内事業者の参画・県産食材の活用

業務実施事業者：【A地区】志摩市（1日あたり最大想定供給数 21,000個）

- ・（株）ローソンを代表とする4社による共同事業体

＜構成員＞オーケーズデリカ（株）（県内弁当製造事業者）

（株）キャリアカーサービス（県内運送事業者） など

【B地区】伊勢市、鳥羽市、津市等（1日あたり最大想定供給数 5,000個）

- ・（株）セブン-イレブン・ジャパンを代表とする9社による共同事業体

＜構成員＞プレミアムキッチン（株）（県内弁当製造事業者） など

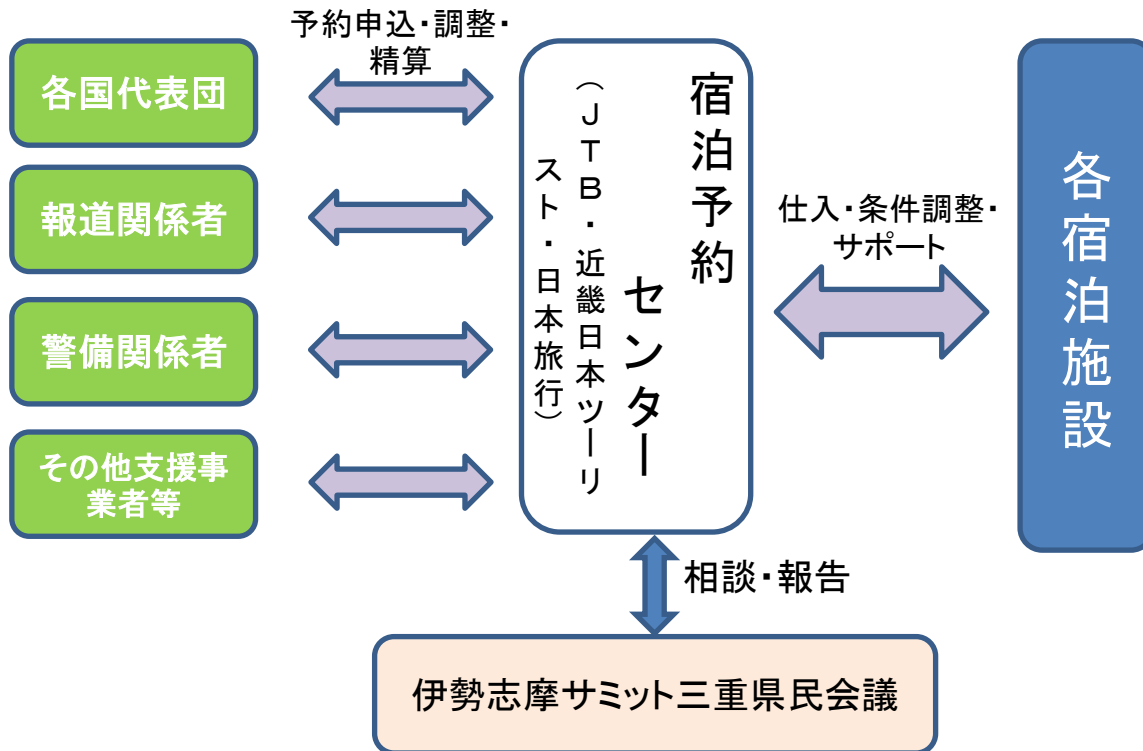
(2) 小規模需要への対応について

食事を提供できない宿泊施設、国際メディアセンター内の支援事業者等、比較的小規模な弁当需要に対しては、地元の弁当製造事業者による供給が行えるよう、両者のマッチングを促進。

○宿泊予約センターでは、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊に関するサービスを一元的に提供する。

○また、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

※北海道洞爺湖サミット宿泊予約センター取扱実績：1日あたり最大約2万5千人、延べ約50万人



○客室確保の状況

宿泊予約センターでは、サミット期間を含むピーク時、約9千室の客室を確保(1月末現在)

○風評対策

4, 5月の伊勢志摩方面への旅行について「宿がとれないのではないか」との風評から旅行の計画が控えられることのないよう、センターによる客室確保状況を踏まえ、県民会議と観光局が連携して旅行代理店や観光客に対し正確な情報提供と誘客に努めている。

(2) 県民参加の促進に向けた取組 ～サミットを全県的な取組にするために～



伊勢志摩サミット
三重県民会議



外国語案内ボランティア



○目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、三重県を訪れる外国人報道関係者の方々を、おもてなしの心で歓迎し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、国際メディアセンター(三重県営サンアリーナ)や県内主要駅に設置する予定のインフォメーションセンター等で、外国語による交通や観光等の案内及び三重県の情報発信等を行う。

○活動場所(予定)

国際メディアセンター、中部国際空港、津なぎさまち、名古屋駅、津駅、松阪駅、伊勢市駅、近鉄宇治山田駅、鳥羽駅、近鉄鵜方駅等

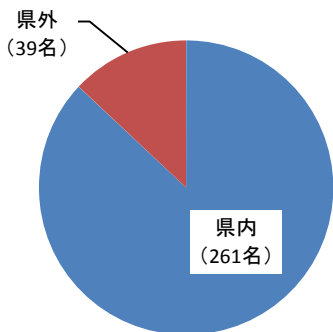
○活動人数 300名程度

○活動期間 平成28年5月20日～5月28日(予定)

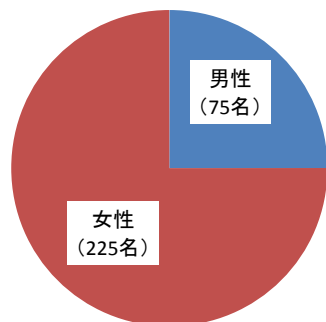
※その他サミット関連事業においても活動予定。

企業等による協賛事業としてのボランティア派遣もあり。

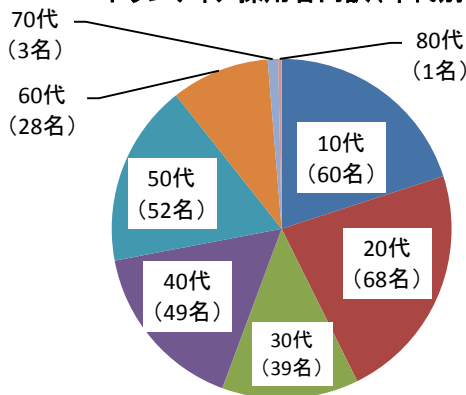
ボランティア採用者内訳
(出身地別)



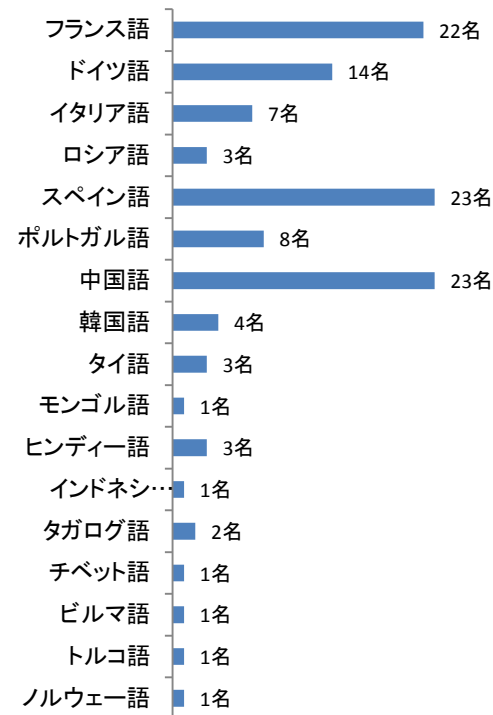
ボランティア採用者内訳(性別)



ボランティア採用者内訳(年代別)



英語に加え他言語にも対応可能な人材



【問い合わせ先】

伊勢志摩サミット外国語案内ボランティア事務局(公益財団法人三重県交際交流財団内)

TEL:059-223-5006 FAX:059-223-5007 E-mail:mief@mief.or.jp



伊勢志摩サミットへのご支援のお願い



伊勢志摩サミット三重県民会議が実施する事業に県内外の企業、団体、個人の皆さんと共に取り組むことを目的として、協賛、応援、寄附を募集しています。

伊勢志摩サミット三重県民会議へのご支援の方法

協賛	県民会議が実施する事業への物品の提供等によるご協力をお願いします。
応援	皆さんが自主的に取り組まれる事業による応援をお願いします。
寄附	県民会議が実施する事業への寄附金によるご支援をお願いします。

協賛、応援、寄附の申込状況 (H28. 2. 4時点)

協賛	応援	寄附
81件 (うち登録71件)	524件 (うち登録486件)	合計 750件 438,533,838円
取組事例 ・ 県民会議が実施する各種イベントへの飲食品等の提供 ・ クリーンアップ活動と時期を合わせた環境美化活動の実施	取組事例 ・ 店舗、施設等へのポスター掲示 ・ サミットデザイン商品の販売 ・ 商品等へのシンボルマークの掲載 ・ カウントダウンの取組	内訳 【法人】538件 418,301,690円 【個人(一般)】99件 19,841,538円 【個人(クラウド)】113件 390,610円

伊勢志摩サミット三重県民会議では、平成27年12月16日から、個人の寄附金募集にあたり、インターネットにより多数の個人から資金を集める手法であるクラウドファンディングの活用を開始しました。

クラウドファンディングの寄附金募集ページ(<http://japangiving.jp/p/3555>)では、サミットや県民会議の事業、三重県の情報などを広く発信しています。



サミット開催200日前イベント



○11月8日が伊勢志摩サミット開催200日前となることから、多くの方々がサミット及びサミット参加国への理解を深める機会を創出し、歓迎機運の醸成やサミットの認知促進を図るため、関連イベントを開催。

○特に、全県的な参加意識の向上を図るため、サミット開催地周辺にとどまらず、イオンモール東員でカウントダウンボードの除幕式、恵利原早餅つき、みえの国観光大使である吉田沙保里さんのトークショー、各種パネル展示、三重テレビの伊勢志摩サミットご当地検定クイズ、三重県出身のSKE48トークショーなどを行った。

イオンモール東員 の イベント

- 9:40～ 恵利原早餅つき
- 10:05～ B・BWAN WANSによる琴の演奏
- 10:10～ カウントダウンボード除幕式
- 13:00～ 吉田沙保里トークショー
- 15:30～ 三重県出身SKE48トークショー

このほか、各種パネル展示、三重テレビ「伊勢志摩サミットご当地検定クイズ」、三重県ご当地キャラグリーティング&撮影会、ワークショップ「アイロンビーズdeG7キーホルダー」、伊勢志摩エコバッグ作り、G7の国旗フェイスシールプレゼントなどを実施。



1. 伊勢志摩サミット開催レセプション ～三重へのいざない～

昨年10月27日(火)、外務省飯倉公館において、三重の地に静かに息づく自然や伝統と、世界をリードし未来を動かそうとする革新の技を、【日本の原風景・心のふるさと三重】、【常に新しく、未来を生み出す三重】の2つのテーマで展開し、駐日外交団、駐日商工会議所、外国プレス等の方々に、サミット開催地三重の魅力・ポテンシャルを体感していただいた。



2. 首都圏における知事ブリーフィング

外務省飯倉公館での伊勢志摩サミット開催レセプションを皮切りに、国内外のメディアに対し伊勢志摩サミットとサミット開催地である三重県・伊勢志摩のPRを行った。

国内報道機関を対象とした
三重県知事会見

日時:平成27年11月11日(水) 15時30分から
場所:日本記者クラブ(東京都千代田区)

- 三重県の最近の動静
- 三重県の紹介(伊勢志摩国立公園、神宮、賢島等)
- 伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組

海外報道機関を対象とした
三重県知事ブリーフィング

日時:平成27年11月18日(水) 12時から
場所:日本外国特派員協会(東京都千代田区)

- 三重県の魅力発信
- 伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組



サミット開催150日前イベント



12月28日が伊勢志摩サミット開催150日前となることから、首都圏をはじめ、全国的な話題性の向上を図るとともに、県外の皆さまにサミット開催に興味を持っていただくべく、第3弾ポスターの発表や、カウンタダウンボードの県外設置など様々なイベントを開催。

特に首都圏でのメインイベントとして、三重テラスにおいて首都圏の方に伊勢志摩サミット及び開催地である三重について知っていただくため、三重県産食材を使った振る舞いや、試食・試飲会及び物販など食を体感できるイベントと、サミットトークセッションを実施。

三重テラスでのイベント

①三重の誇り！食をよくばり体感！

日時：12月27日（日） 13時～16時
志摩市長による伊勢まぐろ解体ショー
松阪牛の試食
県産いちごやみかんの販売など



②伊勢志摩サミット開催150日前記念トークセッション

日時：12月28日（月） 13時～14時
司会：タレント 大西敬子
出席者：みえの国観光大使 堀口文宏
外務省職員 溝渕将司
県民会議会長 鈴木英敬
テーマ：伊勢志摩サミットとは
サミット開催で三重県はどう変わる



その他のイベント

①第3弾ポスター発表

テーマをおもてなしの心として公募し、作成

②カウンタダウンボード設置

外務省、近鉄各駅等県外を中心に設置

③懸垂幕・横断幕設置

年末年始の帰郷時期にあわせ、各市町・県庁舎へ設置

150日前ウィークには、県外の皆様にサミット開催に興味を持っていただくため、カウントダウンボードを県外に設置するとともに、企業の皆様にも応援事業として県内設置に協力をいただいた。

カウントダウンボード設置場所と台数

150日前ウィークで設置したカウントダウンボード	
外務省、内閣府	2台
鉄道駅構内(近鉄名古屋駅、近鉄京都駅、大阪難波駅)	3台
伊勢市役所	1台
その他、企業の応援事業 (三重交通グループ、中日本高速道路、津松菱)	45台
150日前までに設置されたカウントダウンボード	
伊勢志摩サミット三重県民会議が設置	82台
その他、企業等の応援事業として設置	385台

計:518台



カウントダウンボード除幕式(H28.1.8)
(於:外務省)



県民会議シンボルマーク



伊勢志摩サミット
三重県民会議

シンボルマーク作成にあたっては、北勢きらら学園在校時の作品が2008年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された近藤敦也さんに依頼し、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信。

作者コメント

手を繋ぐ2人で、次世代へのつながりを表現しています。

波線は、世界の人々と三重県の人々のつながりのタスキを表現しています。

サミットで培われたあたたかなつながりを次世代へ受け継いでいこうという決意を込めています。



シンボルマーク決定 (H27.10.13)
(於: 伊勢志摩サミット三重県民会議第2回総会)

国ロゴマーク



伊勢志摩サミット開催150日前の12月28日、伊勢志摩サミットのロゴマークが政府より発表されました。7,084件の応募の中から大分県の高校3年生の作品が最優秀作品に選出されました。中央の赤い丸は日の丸を、周囲の桜の花びらはサミットに参加する7カ国を表し、背景には伊勢志摩の美しい海が表現されています。その他、優秀作品が5作品選出され、そのうち2作品が三重県内の学校の生徒の作品でした。



県民会議公式ポスター



三重県での伊勢志摩サミット開催や県民会議の活動をPRするため、計画的にポスターを展開する予定。

第1弾



伊勢志摩 サミット2016

2016年主要国首脳会議 三重県で開催！
3月26日-27日
伊勢志摩サミット
2016年5月26-27日開催
伊勢志摩サミット

サミットが伊勢志摩で開催されることをPRするため、作成。

第2弾

伊勢志摩サミット三重県民会議のシンボルマークが決定しました。



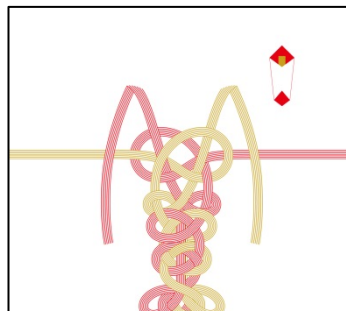
伊勢志摩サミット 三重県民会議

たくさんの投票ありがとうございました

伊勢志摩サミット

県民会議の象徴となるシンボルマーク決定をPRするため、作成。

第3弾



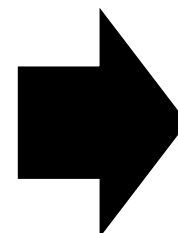
伊勢志摩サミット

ISE-SHIMA SUMMIT

2016.5.26 - 27開催

テーマを「サミット開催に向けてのおもてなしの心」として、広く全国から募集し、作成。

今後...



第4, 5弾

第4弾

テーマを「三重から世界へ(三重の魅力の発信)として、広く全国から募集。現在、31件の応募作品の中から選定中。

第5弾

「明日へつなぐ」をテーマに、これまでの活動を振り返り、サミット終了が新たなスタートでもあることを伝える。



サミット開催100日前イベント



2月16日が伊勢志摩サミット開催100日前となることから、県民や企業・団体等の「行動喚起」ができる活動を展開し、全県的運動を盛り上げるためのキックオフとする。また、広報エリアとしては全国(県内外)への発信に加えて、国際的な発信に取り組み、県内はもとより全国的にも、グローバル的にも話題性向上・発信力向上をめざす。

県民の皆さんの参加に向けた取組

「おもてなし大作戦」キックオフイベント

サミット開催に向けて県民一人ひとりの皆さんにおもてなしの心を持って県全体に取り組んでいくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るためキックオフイベントを開催する。

内容

- ・キックオフセレモニー(8時~8時30分)
 - ・交流会等(8時30分~11時45分)
- その他、三重県自治会連合会の働きかけなどにより、15市町において100日前ウィーク周辺にクリーンアップ活動が実施される予定。

国際的な情報発信

海外メディア

・プレスツアー

2月中旬に第2回県民会議主催のプレスツアー、著名人(フランスの著名シェフ)を招へいたしたプレスツアーを予定

・海外メディアでの広告展開

「NEWS WEEK」へ2月中旬に掲載予定

ICETT設立25周年記念事業

・ASEAN環境フォーラムin三重

ASEAN各国駐日大使等を招いてのパネルディスカッションや、宇宙飛行士の毛利衛氏による環境講演会を実施。

日時:2月12日 14時30分~17時50分

場所:四日市都ホテル

このほかにも首都圏での取組を展開します。



おもてなし大作戦 (クリーンアップ活動・花いっぱいおもてなし運動)

伊勢志摩サミットの開催にあたって三重県を訪れる方々に、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わることにより、サミットに向けた機運醸成や参加意識の向上を図るため、県民参加型の「おもてなし大作戦」を展開する。

「おもてなし大作戦」キックオフイベントの開催

- 開催日時: 平成28年2月14日(日)
- 開催場所: 阿児ふるさと公園芝生広場(志摩市阿児アリーナ横)
- 内容 : キックオフセレモニー、交流会等

クリーンアップ作戦

(清掃によるおもてなし)

サミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各市町、企業、団体等による全県的なクリーンアップ活動の展開。

市町においては、地域におけるクリーンアップ活動の実施、支援等でご協力いただく。



花いっぱい作戦

(花によるおもてなし)

サミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各市町、企業、団体等による全県的な飾花活動の展開。

市町においては、庁舎や関係施設への飾花を行うなど花いっぱい作戦を推進するとともに、地域における花いっぱい運動の支援等でご協力いただく。

- ◆活動事例
(東員町役場
シンボルマークを
デザイン)



(3) 次世代にサミットの資産を残すための取組



伊勢志摩サミット
三重県民会議



「2016年ジュニア・サミット in 三重」(主会場:桑名市 ナガシマリゾート)

《ジュニア・サミットとは》

国が主催するサミットの関連行事であり、G7を代表する15歳～18歳の中高校生等が集まり、サミットで取り上げられる国際問題について話し合い、政府首脳に成果文書を提出する。

《プログラム(暫定)》

4月21日(木)桑名市到着	4月26日(火)会議、三重県送別行事、東京に移動
4月22日(金)開会式、会議	4月27日(水)政府首脳に成果文書提出(27日又は28日)、 都内視察
4月23日(土)会議、視察	
4月24日(日)会議	4月28日(木)同上
4月25日(月)県内分散型交流行事	4月29日(金)東京出発

《会議(討議)テーマ(予定)》

次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会

《日本代表チーム》

三重県内の高校生4名が参加

三重県からの提案

《会議(討議)に資する視察先》

・四日市公害と環境未来館等

《県内分散型の体験・交流プラン及び歓迎交流行事》

- ① 「三重のいちばん」をテーマとした体験・交流プラン 「日本(世界)一、日本(世界)初、日本(世界)唯一、日本(世界)有数」など、「三重のいちばん」をテーマに県内の市町から提案のあった、とっておきの体験や交流プランを提案
- ② 三重ならではの歓迎交流行事三重ならではの、または日本らしい伝統芸能やパフォーマンスの披露、交流イベント等の歓迎交流行事を提案



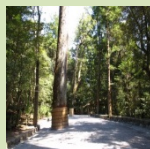
各国首脳による記念植樹の提案

三重県

2016年の主要国首脳会議が「自然との共生」が再認識できる伊勢志摩地域で開催されることとなりました。また、過去のサミット開催場所となった沖縄や北海道では記念植樹が行われてきました。

本県においても、ご来県されるサミット参加各国首脳による記念植樹を実施していただき、伊勢志摩サミット開催記念及び開催地としてのシンボルにしていきたいと考えており、その実施について提案します。

○植樹する苗木:「県の木」である「神宮スギ」



配偶者プログラムの提案

三重県

伊勢志摩は、日本人の心の「ふるさと」として、伊勢神宮や海女文化といった日本の精神性、多様で豊かな伝統・文化、また、英虞湾など日本の原風景ともいえる美しい自然等を数多く有しています。

配偶者の皆様方に三重を通じて日本を感じていただくべく、訪問いただきたい場所・実施していただきたい内容を三重県として選定しましたので、提案します。

- テーマ :「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- キーワード:「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

県産食材等、県産品及び伝統工芸品の活用の要望

伊勢志摩サミット三重県民会議 三重県

<県産食材等について>

「御食国(みけつくに)」として古くから朝廷に海産物を献上してきた三重県は、豊富な食材に恵まれており、「食」の宝庫といえます。伊勢志摩サミットにおいては、首脳や配偶者をはじめ、世界中からお集まりいただく多くの方々に、三重の「食」を堪能していただくことで日本の食文化に触れていただき、また、「食」を通じて、豊かな自然や人々の営みに思いを馳せていただきたいと考えています。

○三重県が誇る県産食材、加工食品、日本酒について、積極的に活用いただきますよう、要望します。

<県産品及び伝統工芸品について>

首脳会議場等におけるしつらえに向けても、以下のとおり活用いただきますよう、要望します。

- 首脳会議場における円卓など、サミットに係る備品・・・尾鷲ヒノキ等の三重県産材
- 首脳会議場における備品や食事の際の食器等・・・三重県の伝統工芸品
- 首脳会議場等の装飾に使用される花き花木・・・三重県の花き花木



松阪牛



伊勢えび



伊賀くみひも



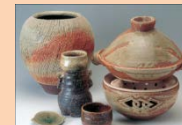
伊勢形紙



鈴鹿墨



四日市萬古焼



伊賀焼



さつき



尾鷲ヒノキ



伊勢茶



各国首脳等と県民との交流～「世界との絆づくり」～

伊勢志摩サミット開催前後に、各国首脳等や配偶者が県内市町及び県内高等教育機関(以下、「県内市町等」。)を訪問され、姉妹都市関係、大学間協定をはじめとする歴史、文化、教育、産業などのつながりを踏まえた、記念事業、伝統文化の紹介などの交流プログラムが実施されるよう働きかける。

○県内市町等とサミット参加各国等とのこれまでのつながりや、未来に向けた関係強化の動きを生かした交流を実施する。

○交流にあたっては、サミット参加各国等の歓迎等に加え、県内市町等とサミット参加各国等の一層の関係強化につながる内容とし、かつ、機会を捉えた地域の伝統文化、特産品の発信を実施する。

○交流プログラムの立案、調整、実施に際しては、県及び県民会議と県内市町等で連携して実施する。

※北海道洞爺湖サミットでは、カナダ首相夫妻が伊達市を訪問。

このほか、フランス、英国、ドイツの駐日大使が道内市町村を訪問するなど、道民との交流が図られた。



多様な主体による国際理解・国際交流



国際理解・国際交流プログラム

県民会議事業

コンセプト

伊勢志摩サミット三重県民会議では、サミット開催を契機として、県民の皆様に、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、楽しみながら学べるプログラムを実施。平成28年度についても、子どもたちを対象とした同様のプログラムを検討しています。

対象

三重県内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、行政機関、企業、各種団体等

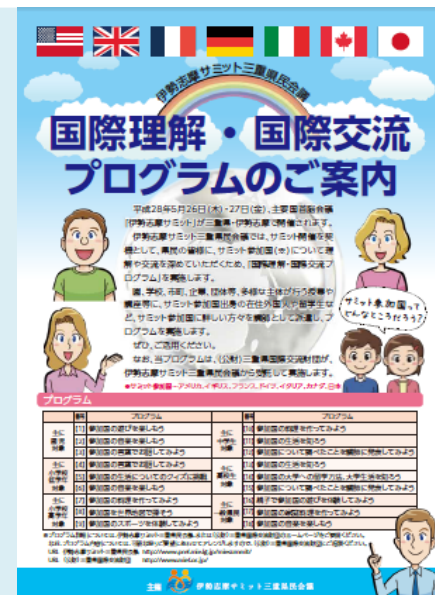
主なプログラムの例

- 参加国の料理を作ってみよう
- 参加国の生活についてのクイズに挑戦
- 親子で参加国の遊びを体験してみよう

募集期間及び実施期間

○募集期間 平成27年11月13日～平成27年12月21日
 ○実施期間 平成27年11月16日～平成28年 3月16日
 全90回の募集に対し申込196回分(平成28年2月16日現在75回分実施)

全90回



「イチからわかる！サミット塾」

外務省事業

コンセプト

次世代を担う子ども達に、外交についての関心を高めていただくとともに、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、三重県内の小中高等学校に若手の外務省職員を派遣し、サミットの説明もしながら、世界のことから身近なことまでわかりやすい授業を行う。

対象

三重県内の小(原則高学年)中高等学校

募集期間及び実施期間

○募集期間 平成27年11月30日まで ○実施期間 平成27年12月～平成28年3月
 申込34校(平成28年2月16日現在24校で実施)

サミットや外交をわかりやすく説明

○外務省の仕事とは ○サミットの歴史とは ○伊勢志摩サミットとは など



三重県情報館(仮称)



■三重県情報館とは

伊勢志摩サミットの際に報道関係者の拠点として政府が設置する国際メディアセンターの広報スペースの一部に、国内外から来県する最大5,000人の報道関係者等に向けて、三重の宝や誇り、三重が持つ日本の素晴らしさを発信するための拠点として、三重県情報館(仮称)を設置する。

【期間】平成28年5月25日から5月28日(予定)

【場所】三重県営サンアリーナ(伊勢市)に隣接する仮設建物内に設置

■基本コンセプト

「伝統と革新～“和”の精神～」

三重の歴史、多様で豊かな文化、自然、食、産業等における「**伝統と革新**」を「**“和”の精神**」という切り口で捉え、「**静と動**」の織り成す三重の多様な魅力を発信する。

■展示コンセプト

「**伝統**」を守りながらも「**革新**」を積み重ねることで進化してきた「**三重**」の「**姿**」「**技**」「**食**」
一繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「**常若**」の思想一

インパクトのある“**展示**”で国内外の報道関係者に「**三重**」を「**感じ**」「**知って**」もらう

■展示カテゴリ及び募集方法

カテゴリ		募集方法
姿	自然	県・市町推薦
	歴史・文化	
技	伝統工芸	県推薦
	先端技術	公募、県推薦
食		県推薦

■コンテンツ選定委員一覧

氏名	所属・役職
生駒 芳子	FUTURADITION WAO (フューチャラディションワオ) プロデューサー
大川 吉崇	学校法人大川学園理事長
坂 美幸	月兎舎 季刊「NAGI」編集長
田中 里沙	株式会社宣伝会議 取締役副社長兼編集室長
(委員長) 西村 訓弘	三重大学副学長
丸川 竜也	株式会社イストグラフ代表

■コンテンツ選定委員会スケジュール

日時	
1月19日	第1回コンテンツ選定委員会
2月17日	第2回コンテンツ選定委員会

伊勢志摩サミット国際メディアセンター（IMC）仮設施設概要

国際メディアセンター

- ① 国際メディア・センターは、約5,000名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミット取材することを念頭に置きつつ、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営。
- ② 既存施設を最大限活用し、不足分を仮設。

主要諸室の概要

名称	主な機能
広報スペース	日本、伊勢志摩の魅力を紹介
アメニティサポート	国内外記者のためのレストラン、郵便・宅配等のサービスを提供
日本側プレス作業室	邦人記者が取材・作業等を実施
議長国プレス事務局	外務省の報道担当官等が執務

※外国プレス作業室、国際放送センターは、サンアリーナの既存施設に設置。

IMC施設イメージ(案)



伊勢志摩サミット 国際メディアセンター仮設施設

○「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点

- ・伊勢の街並みの黒壁等、地元で用いられている伝統的なデザインの活用
- ・木材の縦格子により、建物の正面性を表現した端正な佇まい
- ・木の丸柱に囲まれた通路により、エントランスへの誘導
- ・広報スペースの展示や提供される食事等を通じた日本の魅力の発信

■ 国際メディアセンター仮設施設 完成予想図





海外プレスツアー



国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県の魅力を国内外へ発信する。

三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立と浸透を図るとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげる。

海外プレスツアー、ファムトリップ

① 県民会議主催のプレスツアー（3回実施予定）

- ・第1回 平成27年12月7日、8日〔伊賀地域を中心に〕
モクモク手作りファーム、伊賀流忍者博物館、木の子の里、うれし野アグリ、アグリー農園
- ・第2回 平成28年2月17日、18日〔東紀州地域〕
速水林業、熊野古道センター、松本峠、花の窟神社、ビジョン早田実行委員会、尾鷲物産、ディーグリーン
- ・第3回 平成28年春頃〔中南勢地域を中心としたエリアで検討中〕

② 外務省等主催のプレスツアー（複数回）

③ 海外メディアやエージェントのファムトリップ（複数回） など

これまでに9回実施
世界24ヶ国のプレスが取材



■ プレスツアー実績（外務省主催）

実施日	対象プレス	概要
平成27年8月21日	ASEAN	環境未来館や企業を訪問し、公害問題とその対策を取材
平成27年8月30日、31日	中東	伊勢神宮、おかげ横丁、海の博物館等を取材
平成27年10月30日、31日	ベルギー	伊勢神宮、おかげ横丁、ミキモト真珠島、海女小屋を取材
平成27年11月14日、15日	イスラエル	答志島、河武醸造、頭之宮四方神社を取材
平成28年1月30日、31日	クウェート	志摩観光ホテル、佐藤養殖場、海島遊民くらぶ等を取材





サミット開催を契機とし、海外著名人や海外メディア等を活用して、三重の誇る食や文化等を発信します。

海外著名人招へいプレスツアーの実施

海外で発信力のある人物を三重県に招へいし、その人物に同行する形で海外メディア等のプレスツアーを実施し、著名人の語る三重の魅力を海外プレス等から世界に発信していただきます。

日程：平成28年2月15日（月）～19日（金）

招へい者：シリル・リニャック氏（フランスの著名シェフ）、
フランスメディア

海外メディア等へのプロモーション事業

新聞、雑誌、機内誌等への記事広告等の掲載により、三重の魅力を世界に発信します。

（例）

- ・Newsweek誌への掲載
- ・ANA機内誌「Wing Span」への掲載

開催効果を一過性にすることなく、開催後の三重県の認知度向上、国際観光地としてのレベルアップ、ブランドイメージの確立・浸透を図り、来訪者の増加や県産品の販売増加につなげます。



◆大学生・留学生との交流事業

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに関係するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催し、サミット開催地・三重県が次世代グローバル人材育成の地となることを目指す。

◆サミット記録誌の発行

伊勢志摩サミットの準備から開催経過、県民会議や市町等の取組をまとめて記録誌として刊行し、サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てる。

◆サミット記念館の設置

地域の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、子どもたちに学習の機会を提供し、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。



ご清聴ありがとうございました！

